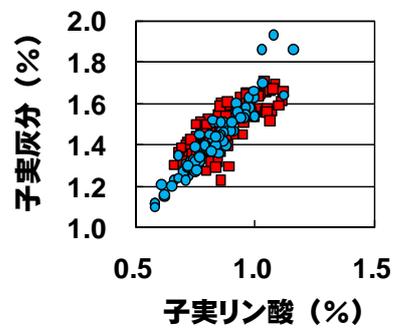
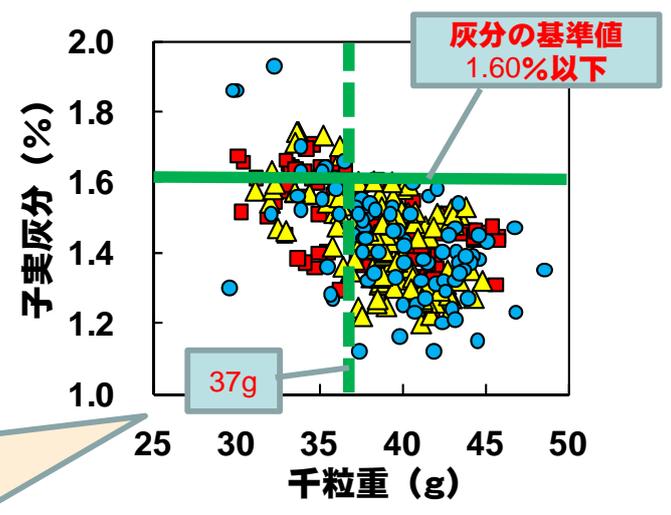


小麦の無機成分吸収特性および子実灰分の変動要因

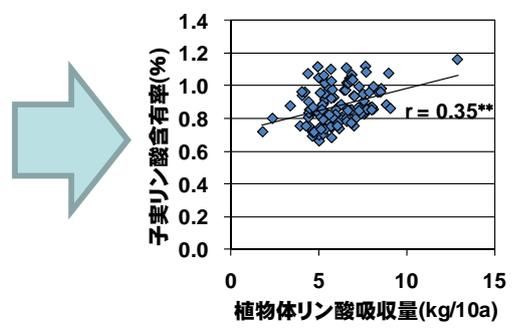
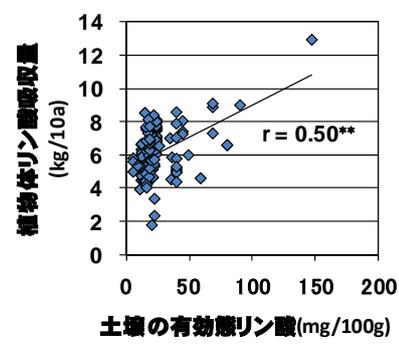
● 灰分は小麦の粉を焼却して燃え残った無機成分。
 ● 灰分が多いと品質低下（小麦粉の色がくすむ、製粉性が悪くなる）
 ● 灰分の少ない高品質の小麦の生産が求められている。



子実灰分と千粒重
 ● 千粒重が小さいと灰分が高い。
 ● 千粒重37g未満で、子実灰分が基準値を超える可能性がある。



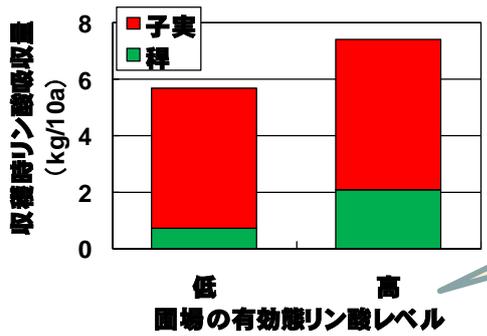
子実灰分と無機成分
 ● 子実灰分が高いものは子実リン酸も高い。



では子実リン酸は？

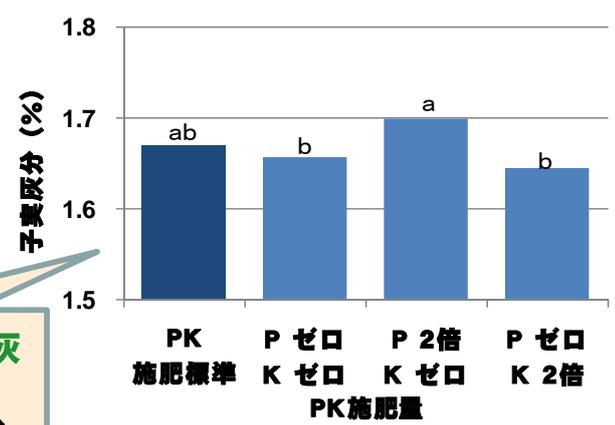
① 土壌のリン酸が高いとリン酸吸収量が多くなる。

② リン酸吸収量が多いと子実リン酸が高まる。



小麦のリン酸吸収特性
 ● 土壌の有効態リン酸の多い圃場では子実以外へのリン酸吸収も多い。

リン酸・カリ施肥が子実灰分に与える影響
 ● リン酸・カリ無施肥でも灰分低下は困難。
 ● リン酸の過剰施肥は灰分が高まることもある。



ab異文字間では有意差(LSD法, P<0.05)
 PK施肥標準: PKとも施肥標準量施肥
 PゼロKゼロ: PKとも無施肥
 P2倍Kゼロ: P施肥標準の2倍量施肥、K無施肥
 PゼロK2倍: P無施肥、K施肥標準の2倍量施肥

子実灰分対策

- 千粒重を軽くしない。 ➡ 適切な栽培環境により登熟環境を整える。
- リン酸吸収量を多くしない。 ➡ 土壌診断に基づく適正施肥により中長期的に土壌中養分の適正化を図る。